



【右下】 配水管の老朽化により、漏水が発生
【左上】 旧宮園配水池
【左下】 平成27年3月から稼働した宮園配水池



シリーズ・厚岸町の水道

第1回 水道の今

～料金改定から4年 水道事業の現状～

平成24年4月、厚岸町は32年ぶりに水道料金を改定し、料金の改定から4年が経ちました。

この間の水道事業の経営状況と、今後の見通しなど、皆さんに知っていただくため、今月号からシリーズで『厚岸町の水道』を掲載します。第1回は、『水道の今』についてお伝えします。

水道料金改定の経緯

水道事業は、皆さんからいただく水道料金で事業を運営しており、町では、平成24年に32年ぶりの水道料金改定を行いました。

それまでは、職員数や給与、運営に関するコストの削減に努めてきた一方、人口減少や節水意識の定着など、さまざまな社会情勢の影響により、収入は年々減少していきました。また、安全で安心な水道水を安定的に供給し続けるためには、老朽化した施設の改修や耐震化への対策も必要でした。

このようなことから、厚岸町水道事業経営審議会や厚岸町議会での協議を経て、全体で20%引き上げる料金改定を行いました。

なお、今後において大幅な料金改定にならないよう、5年毎に水道料金を見直すことになっています。

経営の現状

料金改定後も収益は減少し続け、さらに電気料金の値上がりなどで経費も膨ら

も及びます。厚岸大橋に架かる橋梁添架管を始め、水道管の多くが昭和40年代後半の高度経済成長期に整備されたもので、5年以内に40年の耐用年数を迎えます。

厚岸町の水道管の老朽化と耐震性の対策は、全国と比べると遅れており、特に基幹管路といわれる重要な水道管の耐震化率は5%にとどまり、全国平均の36%と比べると大きく差があります(表参照)。

■厚岸町における水道管の耐震化状況

	延長(m)	基幹管路		
		延長(m)	耐震管延長(m)	耐震化率(%)
導水管 取水場～浄水場	2,846	2,846	224	7.9
送水管 浄水場～配水池	7,310	7,310	603	8.3
配水管 配水池～各家庭	151,414	17,594	566	3.2
合計	161,571	27,750	1,393	5.0

老朽化した配水管をこのまま使用し続けると、今以上に漏水が発生し、修繕費が増加するばかりでなく、断水の頻度が高くなる可能性があります。これら配水管は、毎年、少しずつ更新をしていく必要があります。

今後、安全で安心な水道水を継続して供給するために、需要に合った配水管網の見直しと計画的な更新を行っていき

みましたが、料金改定後の4年間の利益の合計は、ほぼ改定時の予定どおりの結果となりました。

平成27年度においても、職員の会計間異動により人件費が抑えられたこともあり、収支は黒字となる見込みです。

老朽化が著しかった宮園配水池は、5年の歳月をかけて新しい配水池を整備し、平成27年3月から使用を開始しています。以前までに比べ貯水量が増え、耐震性を備えています。

しかし、この間に、東日本大震災の影響による資材の高騰や、台風災害の復旧工事により、予定していた配水管の耐震化工事などを先送りしなければならなくなりました。



平成25年9月16日の台風18号の影響で、門静地域が冠水。上水道の取水ポンプ場も冠水し、取水ポンプに動力を供給する配電盤が水没して取水不能に。約4,100世帯が2日間にわたり断水を余儀なくされました。

今後の見通し

今後の課題となっているのが、町内を網羅している水道管の老朽化と耐震性です。総延長は160キロメートル以上に

ます。

経営改善方策について諮問

平成27年11月、厚岸町水道事業経営審議会に、水道料金の見直しと経営改善方策について諮問し、5月16日に答申がありました。答申は諮問事項に対し、それぞれ6項目ずつあり、今回は主な項目を紹介します。

『料金の見直し』については、現在の料金体系を維持すること、料金水準は5%から10%の値上げが負担の限界であること、改定の時期は現在の料金の算定期間終了後の平成29年4月が適当であるが、消費税率の引き上げと重ならない配慮が必要なことなどがあげられています。

『経営改善の方策』については、引き続きさらなる経営努力をすること、未納者への対応を強化すること、他会計が負担すべきと考えられるものの負担を求めること、安定的な事業運営のために技術の継承や人材育成に努めることなどの答申がありました。

検討課題

現在、町では、平成24年の水道料金改定に係る条例に対する議会の付帯決議や、厚岸町水道事業経営審議会の答申内容などを踏まえ、老朽化した基幹管路の計画的な更新を行うために、安定的な財源をどのように確保していくか検討しています。

●問い合わせ／水道課業務係